

# 年 譜

## 教育哲学研究室

1953. 3 教育研究所発足

教育哲学関係所員

教授：日高第四郎（所長），小島軍造，関屋光彦，守谷英次

講師：秋田稔，長（武田）清子

行政補佐：高木とり

研究題目

1. 新教育のための教育哲学の研究（小島，日高）

2. アジアにおける教育のキリスト教的原理の研究（関屋，秋田，長）

3. 国際理解の教育の調査および研究（高木）

4. 学生の補導問題の調査と研究（守谷，小島）

4 国際基督教大学・教養学部を設置が文部省により認可

講師以上の所員は，教養学部の教員を兼務。

11 研究発表会「プラトンのエロースーその教育的意義についてー」  
（秋田稔）

1954. 4 成員：讃岐和家助手に就任（研究題目1に所属）

教育関係資料「万人の糧」A-No.1 からA-No.3 までを刊行

エミール・ブルンナー教授を講師として公開講義「Justice and Freedom in Society」を新宿精華学園で開催（1955年，英和对訳

として刊行)

1955. 4 成員：秋田稔，長（武田）清子，助教授に就任。高木とり，讃岐和家，講師に就任
- 6 ロックフェラー財団の援助による研究プロジェクト「民主主義教育の哲学的基礎づけ」の草案を第1回反響委員会に提出（委員は亀山直人，森戸辰男，田辺繁子，山崎匡輔，坂西志保，田中耕太郎の諸氏）委員会は1956年6月までに4回開催
1956. 9 「民主主義教育の哲学的基礎づけ」の綱要をめぐり，高等学校の現職教員十数名と研究会を開催
- 10 ロンドン大学のジョセフ A. ロアリズ教授を招き「民主主義教育の哲学的基礎づけ」の綱要をめぐり懇談会を開催
- 11 アーノルド・トインビー教授を招き「民主主義教育の哲学的基礎づけ」の綱要について懇談会を開催
1957. 4 大学院教育学研究科，文部省の認可を得て発足。  
教授と準教授である所員は大学院の教員を兼ねる。教育哲学研究室からは，小島，日高，長，秋田が選択科目担当教員として加わり，他に非常勤講師として，石原謙，小林澄兄教授が出講
- 6 イェール大学 J. S. ブルーベッカー教授を迎えて6回の教育学特別公開講座を明治大学大学院講堂で開催（東京大学ほか6大学との共催）
- 8 5日から12日まで8日間の日程で，「民主教育共同研究会」を小・中・高校の現職教員60名参加の下に学内で開催（以後，1960年度まで毎年開講）  
講演者：茅誠司および森戸辰男の両氏
- 8 成員：高木講師辞任
1958. 4 大学院教育学研究科教育原理学専攻（修士課程）教育哲学専修課程（入学定員8）の増設が認可  
成員：小林澄兄教授就任，小林哲也助手就任，コロンビア大学

W. M. ワイズ教授（12月から59年7月まで）学生指導法担当者として就任

1959. 4 成員：讃岐講師，助教授に就任，小林哲也助手，講師に就任（4月）

成員：秋田助教授，ハーヴァード燕京研究所客員教授に就任（8月から61年6月まで）

ベン C. デューク講師就任（11月，当初視聴覚教育を担当，後に比較教育学を担当）

1959. 7 7日から30日まで「学生指導問題研究セミナー」を学内で開催

9 『民主主義教育の哲学的基礎づけ』（小島軍造編著）を発行

1959年度：講演会

コロンビア大学 A. マイエル教授：「民主的意志決定について」（4月18日－5月13日）

ロンドン大学 J. A. ロアリズ教授：「国際理解と国際協力のための教育の原理としてのヒューマニズム」（9月14日－10月3日）

チュービンゲン大学 O. F. ボルノウ教授：「教育と生」（10月13日－17日）

1960. 4 成員：長（武田）清子助教授，教授に就任

12 「民主主義教育の哲学的基礎づけ」の研究プロジェクト完了

1961. 4 成員：小林哲也講師，助教授に就任

9 小島教授，フルブライト客員教授としてハーヴァード大学へ出向（62年6月まで），讃岐助教授，ハーヴァード大学教育学大学院に留学（63年8月まで）

12 長（武田）教授，「旧近代日本におけるキリスト教受容と人間形成」により東京大学より文学博士授与

1962. 3 小島教授，「民主主義と倫理」により東京大学より文学博士授与

4 成員：秋田助教授，教授に，デューク講師，助教授に就任

川瀬謙一郎助手に就任，守谷教授，辞任

教養学部社会科学科の中の教育学専修課程が独立し、教育学科として文部省から認可される。初代学科長、小島教授  
国際基督教大学教育学専攻科の新設が認可

- 9 小林助教授，ミシガン大学に留学（65年9月まで）
- 11 関屋教授，パリ大学に研究のため出向（63年10月まで）
- 1963. 4 成員：川瀬助手，講師に就任。黒田瑛助手，就任（7月）
- 1964. 4 大学院博士課程開設が認可  
成員：川瀬講師，助教授に就任
- 1965. 長（武田）教授，プリンストン大学およびハーヴァード大学に出向（9月より67年3月まで）
- 9 小林助教授，“General Education for Scientists and Engineers in the United States of America and Japan”により，ミシガン大学から Doctor of Philosophy 授与
- 1966. 3 成員：日高教授，定年退職，客員教授に就任  
成員：関屋教授，退職（8月），小林助教授，讃岐助教授，準教授に就任（4月）  
川瀬助教授，ハーヴァード大学に研究員として留学（67年6月まで）。ハーヴァード大学 R. ウーリッヒ教授，客員教授として来学（10月－11月）  
下記の研究会を開催
  - 1) 小島教授：「デューイにおける自由と統制」（11月）
  - 2) 讃岐準教授：「期待される人間像—特にその内容をめぐって—」（12月）
  - 3) 小林準教授：「教養教育について—その哲学的背景としての Perennialism と Progressivism」（67年1月）
- 1967. 下記の研究会を開催  
川瀬助教授：「フレッチャーの Situation Ethics について」（68年3月）

成員：小島教授，定年退職（68年3月），68年4月以降，客員教授に就任

1968. 4 成員：磯田一雄講師就任（教育課程・方法学）

7 小林準教授，ユネスコ・ハンブルク研究所所長に出向

研究会：「R. ウーリッヒと J. W. ガードナー—現代教育哲学の一側面」（讃岐準教授）を開催（11月）

1969. 4 成員：磯田講師，助教授に就任

小島客員教授，大学院教授に就任（72年3月まで）

小林準教授，辞任（7月）

7 デューク助教授「日本教職員組合の戦いの歴史」によりロンドン大学から Doctor of Philosophy 授与

1970. 成員：秋田教授，辞任（71年3月）

1971. 4 成員：金子武蔵大学院教授，就任（教育哲学）。中川秀恭教授，就任（キリスト教教育哲学）。讃岐準教授，教授に就任

1972. 4 成員：デューク準教授，教授に，川瀬助教授，準教授に就任

1974. 4 成員：磯田助教授，準教授に任用。金子大学院教授，退任，以後客員教授に就任（75年3月）

1976. 4 大学院比較文化研究科修士課程，設置認可に伴ない，長（武田）教授，中川教授は，比較文化研究科に移籍

1977. 3 成員：磯田準教授，辞任

12 日高客員教授，逝去

1978. 成員：川瀬準教授，教授に任用（4月）。林昭道講師就任（4月）。立川明講師就任（9月）

1979. 下記の研究会を開催

立川講師：「民主的な授業形態における仮設的方法の役割」（10月）

山口和孝非常勤講師：「宗教的情操の展開と矛盾」（80年1月）

1980. 教育研究所の研究プロジェクト「大学入試における学力テスト

と能力テストの比較研究」に参加（82年度まで）

下記の研究会を開催

村瀬良子非常勤助手：「キェルケゴールにおける批判的主体の形成」（6月）

小島名誉教授，死去（8月）

1981. 4 成員：立川講師，助教授に任用

1983. 教育研究所の研究プロジェクト「アメリカ中等教育における対日観教育（歴史教育）の実情についての調査研究」（主査：B. C. デューク）に参加

1984. 4 成員：林講師，助教授に任用

全国私立大学教職課程研究連絡協議会および関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会の事務局が教育哲学研究室に置かれる（84年度および85年度）。讃岐教授が，事務局長となる

1985. 下記の研究会を開催

岸信行氏：「教育哲学研究の深まりを求めて—フレーベル教育哲学を例として—」（11月）

中野光氏：「1920年代の教育改革とキリスト者たち—長野県の場合を中心として—」（86年2月）

1986. 成員：立川助教授，準教授に任用（4月）

文部省科学研究助成金による共同研究「道德教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究—日・独・米の比較を中心に—」（研究代表者は讃岐和家）を行った（1986,87両年度にわたる）

下記の研究会を開催

山崎純一氏：「旧中国の女性観と女子教育」（87年2月）

1988. 3 上記共同研究の成果を報告書として刊行

成員：長（武田）大学院教授，退任

下記の研究会を開催

中島邦氏：「女性問題をめぐって」（10月）

## 教育心理学研究室

1949. 6.13 M. E. Troyer博士来日
1952. 4.28 M. E. Troyer教授就任
1953. 3.23 (教養学部開設認可)  
(日高第四郎所長就任)(教育研究所開所)
- 4.13 (教養学部第1回生入学式)
- 4 A. P. McKenzie教授就任
1954. 4 岡部彌太郎教授就任
1957. 3.15 (大学院教育学研究科開設認可)
- 3.21 (教養学部第1回生卒業式)
- 5.18-19 日本応用心理学会第23回大会を開催(大会会長:岡部教授)
- 9 Helen M. Walker客員教授就任  
星野命専任講師就任  
本館4階に心理学実験室開設
- 1958.11. 2-3 ICU祭において実験のデモンストレーションとテストを実施。観察室においてドル・プレイによる家族関係の心理学研究実施
1959. 3 初の教育学修士, 2名の教育心理学専修生に授与  
今田恵客員教授による集中講義
- 7 W. Max Wise教授来日「学生問題研究セミナー」開催  
都留助教授による教育相談実習開始  
テスト・ライブラリーの計画
1960. 3 A. P. McKenzie教授退職
6. 6 同教授トロントにて逝去
- 7 Troyer教授帰任 同教授, ロックフェラー財団の助成で大学生(ICU)の価値観研究開始
1961. 4 原 一雄専任講師就任

- 8.30-9.2 第1回心理学夏期セミナー（於中軽井沢，東洋英和女学院  
追分寮）25名参加 世話人：星野・古沢
- 9 Marie Bale助教授就任
- 10.12-13 日本社会心理学第2回大会を開催（於本館D館）参加者  
130名
1962. 8.25-28 第2回心理学夏期セミナー（於那須，国民宿舍五岳荘）24  
名参加
- 9 学生相談室発足
- 10 ICUΨ（ファイ）発足
1963. 8.21-24 第3回心理学夏期セミナー（於白馬村新田，民宿北林宅）  
35名参加
12. 6-7 日本応用心理学会相談部会第6回大会（於D館）  
委員長：都留助教授
- 4.12 ICUΨ主催講演会 計4回  
講師：佐治守夫，東 洋，入谷敏男，詫摩武俊各氏
1964. 8.18-21 第4回心理学夏期セミナー（於那須，国民宿舍五岳荘）27  
名参加
- 9 古畑和孝専任講師就任
1965. 8.28-31 第5回心理学夏期セミナー（於那須，国民宿舍五岳荘）3  
グループ，5講義 参加者，世話人不明
1966. 3 岡部教授定年退職 岡部教授御夫妻送別会
- 5.11 Ψ主催講演会 柏木恵子先生（東京女子大学）
- 6.17 M. Troyer教授御夫妻送別会
- 8 M. Troyer教授退職  
第6回心理学夏期セミナー（於本栖湖，国民宿舍本栖ロッジ）  
49名参加
1967. 3.14 岡部教授逝去
- 3 M. Bale助教授定年退職



- 4 H. Morsbach助教授就任
- 7 都留教授フィリピン, アテネオ・デ・マニラ大学日本研究講座に出講
- 7.14-16 第7回心理学夏期セミナー (於箱根大平台, 八千代荘) 14名参加
- 10 Ψ主催見学: 国立武蔵療養所, 東京教育大学教育相談所
- 1968. 1 Ψ主催講演会 Dr. M. Bale (韓国李花女子大学)
- 3 卒業研究発表会
- 4 教員研究室本館3階へ移転
- 5.30 Ψ主催講演会 我妻洋先生
- 6.14-15 Ψ主催映画会「夜明け前の子供たち」
- 9. 7-10 第8回心理学夏期セミナー (於伊豆, 天城山荘) 27名参加
- 1969. 2 都留教授帰任, 教育学科長兼教育研究所長に就任  
原助教授アメリカ国立衛生研究所に出張
- 3 卒論研究発表  
研究室 412号室改造, VTR設置
- 9 H. Morsbach助教授退職
- 1970. 4 梅津八三教授就任
- 4 向井(深見)敦子助手就任
- 1971. 7 都留教授アテネオ・デ・マニラ大学日本研究講座主任として出講
- 12 星野準教授アテネオ・デ・マニラ大学日本研究講座主任をひきつぐ
- 1972. 1 都留教授帰任
- 4 古畑和孝準教授・教授に就任
- 7 星野準教授帰任・教授に就任
- 第9回心理学夏期セミナー (於八王子, 大学セミナーハウス)  
25名参加 原書講読, 討議

- 10 米国Dick-Hunter Memorial Fundにより動物飼育・実験室増設  
 1973. 4-11 M. Troyer先生客員教授として滞在  
 9 カリフォルニア大学サンタバーバラ校よりJerry Higgins招聘  
 準教授着任  
 1975. 5.21 研究室主催談話会 白井常先生（東京女子大学）  
 10.17 教育研究所主催講演会 Dr. J. Higgins  
 1976. 4. 2 研究室主催「発達心理学1日セミナー」（於図書館セミナー室）  
 参加者：首都圏大学教員院生70名  
 講演者：Dr. Paul H. Mussen（UCバークレー校）  
 発表者：波多野誼余夫・高橋恵子，三宅和夫・柏木恵子  
 5.22 研究室主催講演会 Dr. Lovejoy  
 6 Jerry Higgins招聘準教授カリフォルニア大学サンタバーバラ  
 校へ帰任  
 10.30 研究室懇談会（於シーベリー教会堂）  
 1977. 3 梅津教授退職  
 古畑教授退職  
 3. 4- 6 Joseph A. Precker（香港大学）教授来日  
 5.17 心理学懇話会 講師：苫米地憲昭氏（小林病院）  
 6.14 心理学懇話会 講師：岩瀬純一氏（千葉家庭裁判所）  
 8.30-9. 1 心理学夏期セミナー復活（於八王子，大学セミナーハウ  
 ス）41名参加 8分科会 世話人：明田芳久  
 12.13 心理学懇話会 講師：星野命教授  
 12.21 本館408号室へ助手室を移転  
 1978. 1.24 心理学懇話会 講師：平尾美生子女史（東京都教育研究所）  
 2.25 卒論研究発表 発表者20名  
 3. 1 心理学懇話会 講師：長谷川浩一先生（青山学院大学）  
 4 香港大学よりDr. Precker招聘教授として就任  
 5.30 心理学談話会 講師：Dr. Precker

- 9 栗山容子専任講師就任  
原教授研究のためコロラド大学行動遺伝学研究所へ出張
9. 6－9 心理学夏期セミナー（於茨城県高萩，大心苑）67名参加
- 10.5 大学コンボケーション講演者：Dr. Ausbel（ニューヨーク市大）
1979. 2.13 心理学談話会 講師：柏木恵子先生（東京女子大学）
- 2.22 卒論研究発表会 参加者約50名
- 8 心理学夏期セミナー（於尾瀬，パーク・ホテル）約80名参加
9. 3－5 日本社会心理学会第20回大会（於理学本館）準備委員長：星野教授 参加者総数延900名
1980. 2.15－16 卒論研究発表会 発表者30名（6月卒業予定者を含む）
- 4.10 土居健郎教授就任
- 4.12 土居教授歓迎お茶の会
- 5.13 心理学講演会 講師：浜口恵俊先生（大阪大学）
- 5.24 第19回生理心理学・精神生理学懇話会（於理学館）準備委員長：原教授 参加者110名
- 7.13－16 心理学夏期セミナー（於八王子，大学セミナーハウス）72名参加 9分科会 世話人：川瀬正裕
- 12.16 心理学コロキウム 講演者：赤嶺利男教授（ワシントン州立大）
1981. 2.21 卒論研究発表会 発表者24名
- 5.10 人間主義心理学会第4回研究集会 準備委員長：星野教授 参加者18名
- 5.14 大学コンボケーション講演会 講師：ヴァン・デン・ベルグ博士（オランダ現象学派精神病理学・文化心理学者）
1981. 8 心理学研究室，総合学習センター（ILC）中央棟3・4階へ移転
1981. 9. 2－5 心理学夏期セミナー（於伊豆，天城山荘）78名参加 6分

## 科会

- 11.12 心理学コロキウム 講演者：Dr. J. R. Strange（南メソジスト大）
1982. 1.23 心理学コロキウム 講演者：苧阪良二教授（名古屋大学）
- 2.13 修士論文発表会 発表者 5名
- 2.22 卒論研究発表会 発表者 21名
6. 7 卒論研究発表会 発表者 3名
- 6.17 心理学コロキウム 講演者：Dr. C. A. Mahler（カ州大）
7. 5－8 心理学夏期セミナー（於多摩リトルートセンター，多摩ロッジ）
- テーマ「現代社会と心理学」 54名参加 8分科会
- 10.7 心理学コロキウム 講演者：Dr. Martin Morf（カナダ）
- 12.31 土居健郎教授退任
1983. 2. 3 心理学コロキウム 講演者：都留春夫教授
2. 5 修士論文発表会 発表者 6名
- 2.26 卒論研究発表会 発表者 18名
- 3.10－11 研究室将来計画検討会（於箱根，対岳荘） 参加者：都留，星野，原，栗山，向井
- 3.11 土居健郎先生歓送会（於駒場，こまばエミナース）
- 5.13 心理学コロキウム 講演者：梅本亮夫教授（京都大学）
- 6.11 卒論・修論発表会 発表者計 6名
- 6.22 言語障害学入門講演会 講演者：飯高京子・山崎美智子両氏
7. 4－8 心理学夏期セミナー（於嵐山，国立婦人教育会館）74名参加
- 7.15 心理学専攻生第1回同窓会・都留春夫教授還暦祝賀会（於，西荻窪，こけしや） 出席者80名
- 12.13 心理学研究室談話会 教員・非常勤講師・院生・学生顔合わせ

- 12.26 脳波計一式納入（文部省助成金）
1984. 1.21 修士論文発表会 発表者 2 名
- 2.14 卒論研究発表会 発表者23名
- 2.17 公開授業 講師：明田芳久
- 4.11 Dr. Barbara Bunkerフルブライト招聘準教授着任 担当 社会心理学
1984. 5.21 修士論文発表会 発表者 1 名
6. 8 心理学コロキウム 講師：青木邦子教授（東京女子短大）
7. 2－ 5 心理学夏期セミナー（於八王子，大学セミナーハウス）73 名参加
- 8.27 東京女子大，新田・南両教授来学。同大学研究室へ本学のサル用ケージ・観察箱等贈与
- 9 栗山助教授研究のためロンドンへ David Rackham客員助教授就任
- 11.15 ICU・慶応義塾大学共催公開講演会（於中野，サン・プラザ）講師：Dr. B. Bunker 参加者25名
1985. 2. 2 修士論文発表会 発表者 4 名
2. 4 社会心理学公開授業 講師：Miss Ann Sassman
2. 7 卒論研究発表会 発表者19名
- 4 向井敦子助手準講師に就任
- 4.22 青年心理学公開授業 講師：陳永昌処長（香港教育署研究処）
- 5.20 青年心理学公開授業 講師：詫摩武俊教授（都立大）
- 5.31 青年心理学公開授業 講師：神保信一教授（明治学院大）
6. 3 臨床心理学公開授業 講師：山本和郎教授（慶応義塾大）
6. 6 修士論文発表会 発表者 1 名
7. 3－ 6 心理学夏期セミナー（於八王子，大学セミナーハウス）76 名参加
- 9 原教授日米教育共同研究カルコンに参加

12. 3 心理学コロキウム 講師：石塚正一講師（国際武道大）
1986. 2. 4 映写会「からだといのちとたべものと」
2. 5 修士論文発表会 発表者 4 名
- 2.27 公開授業 講師：信国恵子女史（ファミリーセラピスト）
- 4 広島大学保健管理センターより小谷英文助教授就任
- 5.13 卒論研究発表会 発表者14名
- 5.29 修士論文発表会 発表者 2 名
6. 5 卒論研究発表会 発表者 2 名
- 6.13 心理学コロキウム 講師：Dr. E. G. Nichols（カナダ，マウント・アリソン大）
7. 7-10 心理学夏期セミナー（於八王子，大学セミナーハウス）76 名参加
10. 9-10 心理学研究室創立30周年記念行事（於D館，ILC，大学食堂，委員長：星野教授）
1987. 2. 9 社会心理学公開授業 講師 William A. Scott
- 2.12 卒業論文発表会 発表者27名
- 6.17-18 修士論文発表会 発表者 1 名
7. 6- 9 心理学夏期セミナー（於八王子，大学セミナーハウス）参加者：46名

## 視聴覚教育研究室

1953. 3 教育研究所発足  
視聴覚教育関係教授：西本三十二
1953. 4 AVセンターの開設
1954. 4 AVセンター本格的活動を開始
1954. 7 成員：オハイオ州立ケント大学AV主任教授，ロイ・ウェン

ガーを迎える

1954. 8 第1回視聴覚教育研究協議会開催
1955. 7 第2回視聴覚教育研究協議会開催  
第1回放送教育研究協議会開催  
10月現在成員：西本三十二教授，ロイ・ウェンガー教授，上林二郎助手，杉山貞夫助手
1956. 7 第3回視聴覚教育研究協議会開催，講師エドガー・デール博士  
（オハイオ州立大学教授・教育研究所員で視聴覚教育講座担当の主任教授）  
第2回放送教育研究協議会開催
- 1956 12月現在成員：西本三十二教授，ロイ・ウェンガー教授，布留武郎助教授嘱託，栗原敦雄助手，中野照海助手，伊藤周技術助手
1957. 4 大学院教育学研究科，文部省から認可を得て発足  
7 第4回視聴覚教育研究協議会開催  
8 第3回放送教育研究協議会開催
- 1958 成員：ロイ・ウェンガー教授オハイオ州立セント大学へ帰任 9月にジェームス・テイラー教授着任  
7 第5回視聴覚教育研究協議会開催  
第4回放送教育研究協議会開催
1959. 8 成員：ジェームス・テイラー教授オハイオ州立マイアミ大学へ帰任
1959. 7 第6回視聴覚教育研究協議会開催  
第5回放送教育研究協議会開催  
11 成員：ベン・C・デューク講師着任
1960. 4 阿久津喜弘助手着任  
7 第七回視聴覚教育研究協議会開催  
第六回放送教育研究協議会開催  
8 成員：中野照海講師オハイオ州立マイアミ大学へ留学

- 9 成員：大羽蓁助手着任
1961. 4 成員：川島淳一助手，常勤助手に就任  
第8回視聴覚教育研究協議会開催  
第7回放送教育研究協議会開催
1962. 7 第9回視聴覚教育研究協議会開催  
第8回放送教育研究協議会開催
- 8 成員：川島淳一助手，マイアミ大学留学のため辞任。栗原敦雄助手，オハイオ州立ケント大学留学のため辞任。ベン・C・デューク助教授，休暇を利用して比較教育学研究のため渡英
- 9 成員：百名盛之講師辞任
- 12 成員：大羽蓁助手辞任
- 1963 1961～1962年にかけて，U. S. Office of Educationとの契約によって，日本及びアジア諸国における教育メディアに関する諸研究が行なわれてきたが，その報告書を以下のタイトルで刊行  
Survey of Education Media Research in the Far East (DE-34027-New Media for Instruction 3)-US Government Printing Office.
- 4 成員：石本菅生助手着任
- 7 第10回視聴覚教育研究協議会開催  
第9回放送教育研究協議会開催  
成員：中野照海講師，3年間の米国留学を終え帰任（The Effect of a Subject's Native Language upon his Choice of Alternative "Syntactical Arrangements" of a Set of Picturesという論文を提出し，インディアナ大学よりEd.Dの学位を与えられる）
- 9 成員：ミシガン州立大学からクマタ・ヒデヤ博士を客員教授として迎える
1964. 4 大学院博士課程開設  
成員：布留武郎教授，専任教授として着任



- 6 成員：クマタ・ヒデヤ客員教授辞任
- 7 日本視聴覚教育学会を結成，西本三十二教授が会長に就任  
第11回視聴覚教育研究協議会、第1回日本視聴覚教育学会と共催  
第10回放送教育研究協議会開催
- 1965. 7 成員：阿久津喜弘助手，ミシガン大学に留学のため辞任  
第12回視聴覚教育研究協議会，第2回日本視聴覚教育学会と共催  
第11回放送教育研究協議会開催
- 1966. 4 成員：平田賢一助手着任
- 7 第13回視聴覚教育研究協議会，第3回日本視聴覚教育学会と共催  
第12回放送教育研究協議会開催
- 1967. 3 成員：西本三十二教授，定年のため退職し，帝塚山学院大学学長に就任
- 4 日本視聴覚教育学会の事務局を、視聴覚教育研究室に置く  
布留武郎教授を研究担当責任者とする，文部省科学研究費による「青少年に対するテレビの機能と逆機能」に関する研究が3ヶ年計画で開始
- 6 成員：石本菅生助手，インディアナ大学に留学のため辞任
- 8 第4回日本視聴覚教育学会，お茶の水大学で開催
- 1968. 8 第5回日本視聴覚教育学会，京都大学で開催
- 1969. 6 成員：平田賢一助手，ウォータールー大学（カナダ）留学のため辞任。生田孝至助手着任
- 8 第6回日本視聴覚教育学会，早稲田大学付属高等学院で開催
- 9 成員：阿久津喜弘講師着任
- 1970. 4 成員：布留武郎教授，研究休暇（1970.10まで）
- 9 第7回日本視聴覚教育学会，宮城教育大学付属小学校で開催

1971. 3 布留武郎教授を研究担当責任者とする文部省科学研究費による「青少年に対するテレビの機能と逆機能」に関する研究の報告書が“The Function of Television for Children and Adolescents”と題する323頁の英文版で出版される
- 4 成員：阿久津喜弘講師，助教授に昇任
- 12 成員：中野照海準教授，UNESCO に Chief of the Educational Technology Section として勤務のため休職
1972. 1 第8回日本視聴覚教育学会，埼玉大学教育学部附属中学校で開催
- 4 成員：布留武郎教授，大学院教授に就任
- 5 成員：石本菅生講師着任
- 8 第9回日本視聴覚教育学会，ICUで開催
1973. 3 成員：生田孝至助手退任
- 10 第10回日本視聴覚教育学会・第18回日本放送教育学会連合大会，愛知県婦人文化会館で開催
- 12 成員：中野照海準教授，UNESCO本部より帰任
1974. 4 成員：中野照海準教授，教授に昇任。阿久津喜弘助教授，準教授に昇任。石本菅生講師，助教授に昇任
- 7～ 布留武郎教授，放送文化基金財団から「児童の認知スタイルに及ぼすテレビジョンの潜在効果」の研究で援助を受ける
- 10 第11回日本視聴覚教育学会・第19回日本放送教育学会連合大会，ICUで開催
- 1975～ 阿久津喜弘準教授，1975年度科学研究費補助による「学級集団におけるオピニオンリーダーシップの機能およびその社会的能力との関係についての実証的研究」を実施
- 4 日本放送教育学会の事務局を，視聴覚研究室に置く
- 9 成員：渡辺良助手，UNESCOで教育工学担当のため退任
- 10 第12回日本視聴覚教育学会・第20回日本放送教育学会合同大

- 会，新潟大学で開催
1976. 4 成員：中野照海教授，大学院教育学研究科科長・専攻科科長就任  
阿久津喜弘準教授，教養学部副部長就任
- 10 第13回日本視聴覚教育学会・第21回日本放送教育学会連合大会，松下視聴覚教育財団センターで開催
- 11 西本三十二客員教授の「出版記念と喜寿の祝い」の会を，パレス・ホテルで開催
1977. 3 布留武郎大学院教授の最終講義（3月23日）  
成員：布留武郎大学院教授退任（4月以降客員教授として博士後期課程で指導にあたる）
- 4 成員：阿久津喜弘準教授，教授に昇任  
阿久津喜弘教授，昭和52年度後期放送文化基金の助成による「学校放送の受容・遂行構造に関する実証的研究」を実施
- 11 第14回日本視聴覚教育学会・第22回日本放送教育学会連合大会，香川大学で開催
- 1978.11 第15回日本視聴覚教育学会・第23回日本放送教育学会連合大会，玉川大学で開催
1979. 4 成員：中野照海教授，大学院部長に就任。阿久津喜弘教授，1980年3月まで休暇
- 10 第16回日本視聴覚教育学会・第24回日本放送教育学会連合大会，北海道教育大学を主催校として，札幌市教育文化会館で開催
1980. 4 成員：阿久津喜弘教授，教育学科長に就任。石本菅生助教授，準教授に昇任  
石本菅生準教授，1981年3月まで休暇。浜野保樹助手着任  
4月21日，布留武郎客員教授逝去。4月23日，国際基督教大学礼拝堂において，葬儀が行なわれる
- 10 第17回日本視聴覚教育学会・第25回日本放送教育学会連合大

会，湘北短期大学で開催

- 1981. 4 学部学生の視聴覚教育・教育学・コミュニケーション関連の  
授業科目が，教育学・コミュニケーション（略称：ETC）の専  
修分野にまとめられた
- 9 総合学習センター設立
- 10 第18回日本視聴覚教育学会・第26回日本放送教育学会連合大  
会，島根大学で開催
- 1982. 3 成員：浜野保樹助手，退任  
阿久津喜弘教授，昭和57年度科学研究費補助による総合研究，  
「学校内非行の原因およびその指導・対策に関する総合研究」，  
および，昭和57年度三菱財団人文科学研究助成による共同研究  
「日本型コミュニケーション・プロセスの研究－異文化との比  
較において」を行なう
- 4 成員：中野照海教授，教育研究所所長に就任。阿久津喜弘教授，  
教養学部副部長に就任
- 11 第19回日本視聴覚教育学会・第27回日本放送教育学会連合大  
会，筑波大学で開催
- 1983. 9 成員：石本菅生準教授，教育学科長に就任
- 11 第20回日本視聴覚教育学会・第28回日本放送教育学会連合大  
会，大阪大学で開催
- 1984. 4 成員：中野照海教授，1985年3月まで休暇。石本菅生準教授，教  
育学科長に再任
- 9 第21回日本視聴覚教育学会・第29回日本放送教育学会連合大  
会，東京学芸大学で開催
- 1985. 4 成員：阿久津喜弘教授，広報部長に就任。石本菅生準教授，教授  
に昇任
- 10 第22回日本視聴覚教育学会・第30回日本放送教育学会連合大会，  
福岡教育大学を主催校とし，福岡県立青少年センターで開催

中野照海教授，石本菅生教授，および大学院生は，東洋（東大名誉教授）を代表とする文部省研究助成総合(A)，ICU班「外国語教育における音声つき静止画再生装置の適用に関する基礎研究」を行なう

- 1986. 4 石本菅生教授，教育学科長に再任（1988年3月まで）
  - 9 アデフェミ・シュナイケ客員教授来学（12月まで）
  - 10 第23回日本視聴覚教育学会・第31回日本放送教育学会連合大会，早稲田大学で開催  
西本三十二名誉教授の米寿のお祝いを吉祥寺で行なう
- 1987. 4 阿久津喜弘教授，教養学部副部長（語学科担当）就任（1988年3月まで）
  - 中野照海教授を代表とする，昭和62年度科研一般(B)「音声・文字・画像提示による外国語教育CAIコースウェア開発に関する基礎的研究」が2年間の予定で始まる
  - 10 第24回日本視聴覚教育学会・第32回日本放送教育学会連合大会，福島大学で開催
- 1988. 1 1月9日，西本三十二名誉教授逝去。2月5日，千日谷会堂において，葬儀が行なわれた
  - 4 成員：中野照海教授，大学院教育学研究科科長に就任。阿久津喜弘教授，学生部長に就任
  - 8 中野照海教授を代表とする放送文化基金昭和53年度前期研究助成による「放送番組を中心とした音声・文字・画像併用外国語学習パッケージの開発研究」を実施中

## 英語教育研究室

1953. 3 教育研究所発足

1957. 4 大学院教育学研究科，文部省から認可を得て発足。4月現在英語教育法成員：アーサー・マッケンゼー教授，ロイ・ミラー教授，ウィリアム・モア教授，斉藤勇教授，清水護教授，豊田実講師

1959. 7. 7-10 第1回夏季言語学研究会

1960. 7.11-13 第2回夏季言語学研究会

1961. 7. 7-10 第3回夏季言語学研究会

1976. 4. 1 この年より教育学研究科英語教育法教員，教育研究所正所員となる。大学院比較文化研究科が設置され，それに伴って教育学研究科英語教育法から N. Brannen, R. Matthews 教授，斉藤和明教授が，比較文化研究科専任，教育学研究科兼担となった。

4月現在成員：井上和子教授，小林栄智教授，Richard Linde 教授，村木正武教授，Frederick. C. C. Peng 教授

7.16-8. 1 第1回 ICU 言語科学夏季講座

講師：井上和子，小林栄智，村木正武，F. Peng，桜井茂治，J. Emonds (UCLA), S. Davis (SUNY, Albany), B. Saint Jacques (UBC), D. Steinberg (U. of Hawaii, Manoa), W. Engel (Vanderbilt U.)

7.17-18 第1回幼児言語学シンポジウム

7.24 第3回言語社会学シンポジウム

7 Descriptive and Applied Linguistics Vol.9 発行

7.31- 8. 1 第2回日本手話学術研究会

8.30-31 第15回 ICU 夏季言語学研究会

1977. 4 Descriptive and Applied Linguistics Vol.10 発行

- 7.23－8. 5 第2回 ICU 言語科学夏季講座  
 7.30－31 第2回幼児言語学シンポジウム  
 7.23－24 第4回言語社会学シンポジウム  
 8.30－31 第16回 ICU 夏季言語学研究会  
 8.31 英語教育法同窓生と在校生の懇親会（大学食堂）
1978. 1.28－2. 5 第1回冬季言語学セミナー  
 講演 John R. Ross 教授（MIT）  
 4 Descriptive and Applied Linguistics Vol.11 発行  
 8. 7－12 第3回 ICU 言語科学夏期講座  
 第3回幼児言語学シンポジウム  
 第5回言語社会学シンポジウム  
 8.29－30 第17回 ICU 夏季言語学研究会  
 8.30 英語教育法同窓会と在校生の懇親会（シーベリチャペル）  
 12 Barnhard D. Harder 準教授（英語学）着任
1979. 4 Descriptive and Applied Linguistics Vol.12 発行  
 8.30－31 第18回 ICU 夏季言語学研究会
1980. 4 Descriptive and Applied Linguistics Vol.13 発行  
 8.28－29 第19回 ICU 夏期言語学研究会
1981. 4 Descriptive and Applied Linguistics Vol.14 発行  
 7.20 講演 “Representational Grammar vs. Derivational Grammar”  
 Henk C. Van Riemsdijk 教授（アムステルダム大学）  
 8.10 講演 1. “Special Deixis” Charles Fillmore 教授（カリフォルニア大学，バークレイ）。2. “The More the Merrier” John R. Ross 教授（MIT）  
 8.27－28 第20回 ICU 夏季言語学研究会  
 研究発表数23，野崎昭弘教授（ICU），川本茂雄教授（早大）による講演，参加者約210名  
 8.27 英語教育法同窓会と在校生の懇親会（ICU 大学食堂）

- 12 Descriptive and Applied Linguistics Vol.15 発行
1982. 6 Barnhard D. Harder 準教授 (英語学) Canada Ontario の  
University of Windsor に戻られる
- 8.26-27 第21回ICU夏季言語学研究会  
研究発表数20, Paul Kiparsky 教授 (MIT), 梶田優教授 (東京  
学芸大) による講演, 参加者約250名
- 8.28-29 東京言語学セミナー  
Paul Kiparsky, Alec Marantz, Mark Liberman, 大津由起雄氏講  
演
9. 8 言語学討論会 Alec Marantz 教授 (MIT)
- 9.22-24 言語学セミナー Joe Emonds 教授 (ワシントン大学)
- 11.11 講演 Pauline Robinson 教授 (Reading University)
- 11.17 Hajah Asmah Haii-Omar 教授来訪 (マラヤ大学言語センター  
所長)
1983. 2 Descriptive and Applied Linguistics Vol.16 発行
- 4 井上和子教授, 日本言語学会会長に就任
- 7.27 英語教育法大学院生による日本電電公社, 武蔵野電気通信研  
究所見学
- 8.20-21 英語教育法大学院生によるセミナー (八王子の大学セミ  
ナーハウス)
- 8.23-29 東京言語セミナー  
W. O'Neil (MIT), D. Pesetsky (University of Southern  
California), R. Mey (Columbia University), O. Jaeggli  
(University of Southern California) による講演, 参加者約200名
- 8.25-26 第22回 ICU 夏季言語研究会  
参加者約180名
- 12.21 講演「条件文について」赤塚のり子準教授 (UCLA 日本語科)
1984. 1 Descriptive and Applied Linguistics Vol.17 発行



- 6. 8 講演 “Grammatical relation in the history of English” Wayne O’Neil 教授 (MIT)
- 6.15 講演「日本語の case-marking について」北川千里教授 (University of Arizona)
- 8.23 英語教育法大学院生によるセミナー (八王子大学セミナーハウス)  
講演「GB 理論について」長谷川のぶ子助教授 (University of Massachusetts, Amherst)
- 8.28-29 第23回 ICU 夏季言語学研究会  
参加者約200名。
- 8.29-31 東京言語学セミナー  
連続講義 “Current Issues in Theories of Syntax and Logical Form” Howard Lasnik 準教授 (University of Connecticut)
- 12.19 「日本語の Idiom について」禅野靖司氏 (ICU 語学科卒業, Ohio State University 大学院在学中)
- 1985. 1 Descriptive and Applied Linguistics Vol.18 発行
- 3.11 井上和子教授による最終講義「言語理論とその軌跡」
- 5. 7 講演 “The Case Theory and the development of accusative case in Japanese” Dr. Shigeru Miyagawa (University of Arizona)
- 5.31 講演 “Beyond the NP” 山田洋 (ICU 語学科および英語教育法卒業生, 大妻女子大学助教授)
- 8.25-26 SLL 研究会 (八王子大学セミナーハウス)
- 10.18 講演 “An issue in Japanese anaphora” 阿部泰明 (ICU 語学科および英語教育法卒業生, 立教大学助教授)
- 12. 6 講演 “On lexicalization” 島村令子教授
- 1986. 1.18 講演 “GB Theory and Barriers” 大島信 (高知大学)
- 2 Descriptive and Applied Linguistics Vol. 19 発行

- 5.12 講演 “Conditionals revisited” 赤塚のり子教授  
 8.24-25 SLL 研究会（八王子大学セミナーハウス）  
 8.27-28 第25回 ICU 夏季言語学研究会  
 1987. 2 Descriptive and Applied Linguistics Vol.20 発行  
 7. 1 講演 “On Linear Grammar” 阿部泰明助教授（立教大学）  
 10 講演 “Linguistics across Cultures : Theory and Applications”  
 Dr.Gerhard Nickel  
 1988. 2.12 講演「日本語教育の最近の動向」広瀬正宜助教授（本学）  
 3.12 村木正武教授による最終講義「言語学と私」  
 4 4月現在英語教育法成員：小林栄智教授，Richard Linde 教授，Frederick C. C. Peng 教授，Randolph H. Thrasher 教授。

## 理科教育研究室

- 1958.4 大学院教育学研究科教育方法学専攻（修士課程）に理科教育法専修課程（入学定員12）増設。高等学校普通教諭一級免許状授与の所要資格を文部省が認定。担当は教授：Orlo. L. Derby，原島鮮，山岡望，篠遠喜人 準教授：Donald C.Worth 講師：山榊雅信  
 1959 成員：平野四郎教授，大内謙一教授就任（4月）。原島教授自然科学科長就任（4月），1966.12まで。Derby 教授退職（6月）。篠遠教授教養学部長在任，1957.6より1965.3まで  
 1960 成員：山岡教授退職（3月），渡辺正雄講師就任（4月）。山榊講師指導「理科教育における新しい教材およびその指導法の効果に関する実験的研究」  
 1961 成員：平野教授退職（3月），Worth 準教授，教授に昇格（4月）。大内教授の研究休暇中，Ewing C.Scott 教授着任（9月），任期1年

- 八幡製鉄・富士製鉄より寄付を受け「自然科学教師の会」を開催  
(8月), 参加者38名  
原島教授指導「CBA の調査と検討」および「PSSC テキストブック  
の内容の検討」
- 1962 成員：Sherman A.Hoslett 教授着任(9月)。篠遠教授, 大内教授 1  
年間の休暇より帰任(9月)  
専攻科(理科教育法専攻課程が含まれる)新設(4月)  
文部省科研費機関研究費(B)「物理教育法の基礎研究」(研究担当者  
原島教授)交付, 2年間継続
- 1963 成員：原島教授 4ヶ月間の台湾出張より帰任(2月)  
アジア財団他より寄付を受け夏期講習会「BSCS プログラムの研究」  
を開催(8月)
- 1964.4 博士課程開設, 教育方法学専攻(視聴覚教育, 英語教育, 理科教  
育)入学定員12名。担当は原島教授, Worth 教授, 大内教授, 篠遠  
教授, Hoslett 教授, 山榊講師  
成員：Worth 教授 1年間の休暇より帰任(9月)
- 1965 成員：篠遠教授退職(3月), 客員教授就任(4月)
- 1966 成員：湊宏準教授就任(4月)。原島教授, 教育学研究科長兼任(4  
月), 1966.12まで  
新築の理学館(同館3階)に移転(12月)
- 1967 日米会議「大学における生物教育」委員長篠遠客員教授(1月)。  
文部省科研費総合研究「高等学校物理における教材と教具の研究  
と試作」(研究代表者 原島教授)交付, 3年間継続  
同「生物教育の基礎的研究」(研究代表者 篠遠客員教授)交付, 3  
年間継続  
成員：原島教授, 大学院部長就任(1月), 1968.6まで。中山和彦講  
師就任(4月), Hoslett 教授の休暇中沖垣達準教授就任(9月)
- 1968 成員：湊準教授退職(3月)。三宅彰教授就任(4月), 自然科学科

長・計算センター所長在任，1967.4より1969.9まで。Hoslett 教授1年間の休暇より帰任(9月)。沖垣準教授退職(10月)

ICU とアジア生物教育学会の共催「第2回アジア生物教育会議」参加者アジア16ヶ国より94名(8月)

原島教授「コンピューター (IBM 1130) と映画 (8ミリ) を利用する物理教授法の研究」

1969 成員：勝見允行準教授就任(4月)。Worth 教授1年間の休暇より帰任(9月)。三宅教授学長事務取扱就任(10月)，1971.8まで。Worth 教授教養学部長事務取扱就任(10月)，1970.3まで

1970 成員：Worth 教授，教養学部長就任(4月)，1974.3まで。勝見允行準教授，理学科長就任(7月)，1973.3まで，計算センター所長就任(8月)，1974.3まで。中山講師文部省へ転出，休職(9月)

1971 文部省科研費特定研究(I)「コンピューターを利用した教育，特にその基礎研究およびソフトウェアの開発」(研究代表者 原島教授)交付，3年間継続

成員：勝見準教授，教授に昇格(4月)。Ronald L.Rich 教授就任(4月)。Hoslett 教授，2年間の休職中米国の自宅で逝去(5月)。大内教授6ヶ月間の休暇より帰任(6月)。篠遠客員教授学長就任(9月)，任期4年。三宅教授学務副学長就任(9月)，任期2年

1973 成員：原島教授東京女子大学学長就任，ICU 非常勤講師(4月)。

1974 成員：柿内賢信教授就任(4月)。三宅教授6ヶ月間の休職より帰任(4月)。Worth 教授国際教育交流室長就任(4月)，1974.6まで。石川光男教授就任(9月)，一般教育主任在任，1973.11より1977.8まで。

文部省科研費特定研究「学習過程と評価」(研究代表者 柿内教授)交付，3年間継続

1975 成員：Worth 教授3ヶ月間の休暇より帰任(4月)。国際教育交流室長就任(4月)，任期2年，勝見教授計算センター所長就任(8

- 月), 1983.3まで
- 1976 成員: 山口俊夫教授就任(4月), D館長在任, 1973.7より1980.3まで。Worth 教授, 教養学部長就任(4月), 1980. 4まで。Rich 教授1年間の休暇より帰任(9月)。三宅教授, 教育研究所長就任(11月), 1982. 3まで。
- 1977 講演会「わかる楽しい授業めざして——到達目標研究の役割」長谷戸小学校玉田泰太郎教諭(2月)  
文部省科研費特定研究「客観の記述と思考における言語」(研究代表者 柿内教授), 3年間継続  
成員: 勝見教授理学科長就任(4月), 任期2年。
- 1978 講演会「戦後理科教科書作成の変遷」大日本図書伊藤善郎氏(2月)  
講演会「自然科学と教育」和光大学田中実氏(3月)  
成員: 大内教授退任(3月)。三宅教授, 図書館長兼任(4月), 1982. 3まで。石川教授, 6ヶ月間の休暇より帰任(5月)  
講演会「授業と科学」宮城教育大学鈴木清竜教授(6月)
- 1979 成員: Rich 教授退職(2月)。柿内教授, 大学院教授就任(4月)。田坂興亜助教授就任(9月)  
講演会「化学基礎教授法」戸塚第一中学松井吉之助教諭(3月)
- 1980 文部省科研費一般研究「総合科学教育の基本的問題の事例研究」(研究担当者 柿内大学院教授)  
成員: 田坂興亜助教授, 準教授に昇格(4月)
- 1981 成員: 山口教授1年間の休暇より帰任(4月)。勝見教授, 総合学習センター長兼任(4月), 1983. 3まで  
研究会「理科Iの指導原理の探究」東京理科大学石黒浩三教授(1月)。「物質の探究をめぐって」調布市立中学松井吉之助教諭(3月)。「理科教育の評価と創造性」石川教授(6月)。「理科の授業」横浜国立大学小島秀夫教授(6月)

- 1982 成員：Worth 教授 1 年間の休暇より帰任（3 月）。柿内大学院教授 6 ヶ月間の休暇より帰任（3 月）。石川教授，入学試験研究主任就任（4 月），1988. 3 まで  
フォーラム「台湾における理科教育の現況」台湾東海大学高振華副教授（4 月）
- 1983 成員：三宅教授，1 年間の休暇より帰任（3 月）。Worth 教授，理学科長就任（4 月）任期，2 年。田坂準教授，1 年間の休暇より帰任（8 月）
- 1984 成員：柿内大学院教授定年退職（3 月），非常勤講師就任（4 月）  
田坂準教授，一般教育主任就任（4 月），1987. 3 まで。勝見教授，1 年間の休暇より帰任（9 月）  
本学博士授与第 1 号：教育学博士（理科教育）滝川洋二，学位論文「授業分析にもとづく自然認識の過程の研究——力学の学習を例として」（主査：柿内大学院教授）（3 月）
- 1985 講演会「理科授業の創造とそれ以降」玉田泰太郎教諭（1 月）。  
成員：高橋詢大学院教授就任（4 月）。石川教授 1 年間の休暇より帰任（9 月）。  
タイ文部省教員養成局 Mr.Panya, Mitsamphant が 1 - 3 月滞在  
講演会「現代科学への東洋からの貢献」Guilford 大学 Benfey 教授（11 月）
- 1986 公開セミナー「Benfey 教授を囲んで」，「玉田泰太郎氏を囲んで」（6 月）
- 1987 成員：Worth 教授，9 ヶ月の休暇より復帰（3 月）。山榊講師退職（3 月）  
理学研究科発足に伴い，研究員退任（3 月）：高橋大学院教授，三宅教授，Worth 教授，石川教授，勝見教授，山口教授，田坂準教授，柿内賢信講師，渡辺正雄講師